

2017年「グローバル5」をめざして。

46SC体制

2007年8月21日にイオングループのダイヤモンドシティと合併し、新生イオンモールとして新しいスタートを切りました。11月には、イオンモール羽生(埼玉県)、イオンモール日の出(東京都)をグランドオープン、既存SCに関しても、11月にイオンモール川口キャラ(埼玉県)、イオンモール千葉ニュータウン(千葉県)の増床・リニューアルを実現し、46SC体制を実現しました。

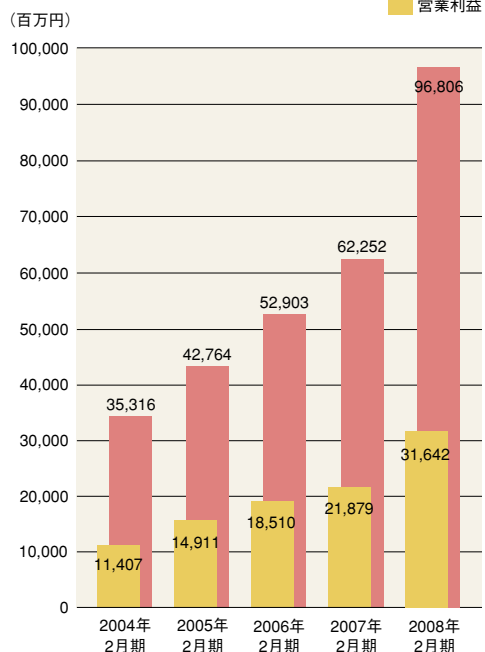
合併を活かしたこれらの積極的な展開により、2007年度イオンモールの業績は大幅に伸長しました。営業収益は、ダイヤモンドシティ19SCの増加269億300万円に加え、新規開設5SC(前連結会計年度3SC、当連結会計年度2SC)の寄与もあり、968億600万円(対前期比155.5%)となりました。営業利益は316億4,200万円(同144.6%)、経常利益は306億8,100万円(同147.5%)、当期利益174億3,900万円(同143.2%)で、19期連続で増収増益を達成しました。

格付けA+を取得、資金調達の機動性を高める

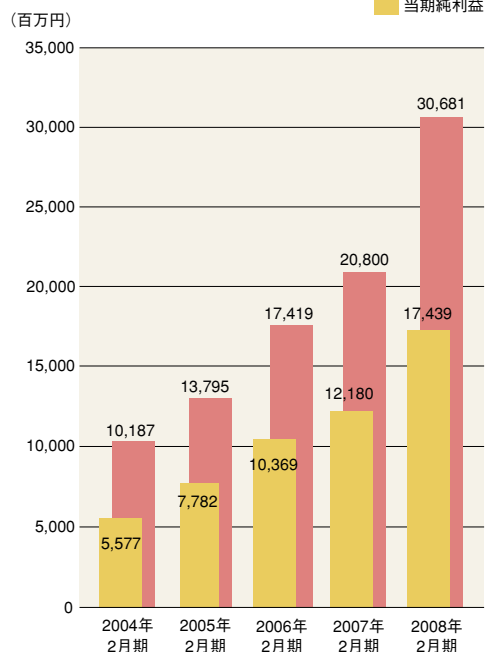
2007年度の資産合計は3,776億6,100万円(対前期比1,446億300万円増)、流動資産は178億3,200万円(同67億増)となり、固定資産は3,598億2,900万円(同1,379億300万円増)となりました。また、負債合計は2,549億2,700万円(同819億400万円増)で、これらの結果、総資産に占める負債比率は前年度74.2%から67.5%に低下し、有利子負債比率に関しても同様に34.3%から22.3%に低下、財務体質の強化を図ることができました。

わが国の経済は、米国のサブプライムローン問題による世界同時株安、米国経済の減速などによって景気の先行きに不透明感が増えています。さらには原油価格、原材料価格の高騰などによる消費者物価の上昇によって、消費者の選別消費がますます厳しくなっています。そうした状況下で、財政の健全性を高め、資金調達の多様化、安定化を図り、機動的な資金調達体制を確立するため、2008年4月7日付けで株式会社格付投資情報センター(R&I)よりA+の格付けを取得しました。

売上高と営業利益



経常利益と当期純利益



## 2010年 営業収益2,000億円をめざす

2007年度、イオンモールは2017年に向けた経営ビジョンを策定しました。世界のデベロッパー面積ランキングでベスト5に相当する「グローバル5」入りをめざすとともに、新領域のビジネスモデルを開発し、オンリーワンの存在となること、従業員満足を向上させること、世界トップクラスの環境マネジメントモールとなることなどです。

グローバル5をめざす第一ステップとして、2008～2010年度の中期経営計画では、①新規モールの出店拡大、②モール収益力の向上、③国際事業の本格的な展開、④活性化ビジネスへの取り組みを推進し、2010年度の小売売上高2兆円、営業収益2,000億円、経常利益600億円の目標を掲げています。

初年度となる2008年度は、組織基盤の強化のため、内部機構の改革にも着手しました。地域で機動性を高めた営業組織とし、東日本、西日本、九州などのエリア別開発体制を強化しました。リスク管理やコンプライアンス強化、内部統制に向けたマニュアル整備なども力を注いでいきます。

国内では秋以降、イオンレイクタウンKAZE

## 外部からの評価

- 日本経済新聞社 日経多角的企業評価システム「プリズム(PRISM)」1,033社中48位
- 大阪・心ふれあうまちづくり大賞「大阪市長賞」受賞 イオンモール鶴見リーファ
- 日本ショッピングセンター協会 第3回日本SC大賞2008「人にやさしいSC賞」受賞 イオンモール下田
- 「Chain Store Age」誌「ストア・オブ・ザ・イヤー2008」第1位 イオンモール羽生
- 織研新聞社 第10回デベロッパー大賞「新人賞」受賞 イオンモール羽生

街区(埼玉県)、イオンモールミエル都城駅前(宮崎県)、冬にイオンモール草津(滋賀県)、イオンモール筑紫野(福岡県)の出店を予定しています。また既存店の活性化は、2008年度は11SCで取り組みます。

海外ではオリンピックが開催される中国・北京市昌平区に、イオンとともに「北京イオン国際商城ショッピングセンター」を開業、アジア展開の第一歩とします。

こうした基盤を原動力に、2017年度に国内外150体制を確立、「働きたい企業・働きたいモール・ナンバー1」をめざします。



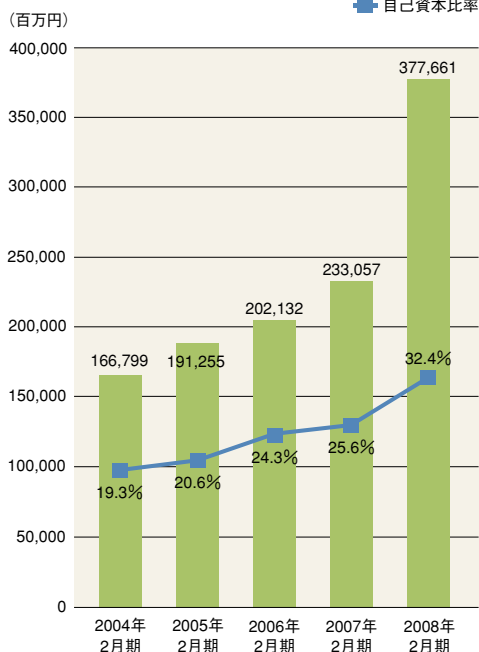
## FTSE 4 Good 指数シリーズに選定

イオンモールは、2005年3月に、「FTSE4 Good 指数シリーズ」銘柄に選定されました。これは、環境保全やステークホルダーとの関係、人権への配慮の3つの観点から企業を評価する世界的な社会責任投資(SRI)指標のひとつです。2008年3月の見直しで、4年連続で組み入れられました。



日本政策投資銀行より、環境への配慮が「特に先進的」の評価を取得、最優遇金利で資金を調達しています。

## 総資産／自己資本比率



## グループの保険代理事業を統合 イオン保険サービス株式会社誕生

イオンモールでは1973年に保険事業を開始して以来、モールに来館されるお客さまとイオンの従業員、専門店向けに損害保険と生命保険を提案してきました。2008年2月21日、グループにおける保険代理店事業を統合し、営業ノウハウや人材を共有化し、経営資源をより有効に活用することを目的に、イオン株式会社、イオンクレジットサービス株式会社の保険代理業が統合、イオン保険サービス株式会社が新たに誕生しました。

これからも全国のショッピングモールを中心に、お客さまに親しみやすく、信頼いただける来店型保険ショップを運営するとともに、ショッピングモールの安全をサポートしていきます。



## イオンモール熊本クレアが「くまもとUD大賞」を受賞

2007年11月23日、イオンモール熊本クレアは、車いすの方や高齢者、おさまづれ等の多様な利用者に配慮した設備の充実度や、わかりやすい誘導サインなど、ユニバーサルデザインへの取り組みが評価され「県民が、見て触れて、使って選ぶ「くまもとUD大賞」」を受賞しました。

イオンモールならではのノウハウを注ぎます。  
**環境対策やテナントとのパートナーシップなど、**



■常務取締役 戦略本部長  
 平林 秀博

### 国内46SCの経験とノウハウを武器に

イオンモールは2008年秋、中国・北京に、ショッピングモールを出店します。現在の中国は、経済発展の最中にあり、8月の北京オリンピック、2010年の上海万博を控え、消費者の意識も大きく変化してきています。モータリゼーション化の流れも、イオンモールが日本で郊外型ショッピングモールをスタートさせた時代に非常によく似ており、まさにショッピングセンターエイジ幕開けの時期といえるでしょう。

すでに北京には世界の小売業、ウォルマートやカルフルといった名だたる企業が進出していますが、当社のような郊外型ショッピングモールはまったく無いに等しいといえます。日本で蓄積したノウハウを活かし、2核1モール型のスタイルを基本に、北京の市場に合わせた中国バージョンをつくりあげていきます。

### キーワードは「安全・安心・清潔」

日本からのテナントも数多く誘致し、中国市場にとって魅力あるショッピングモールとする予定です。私たちの中国への出店は、中国にビジネス展開をしたいが商習慣の違いなどでチャレンジを迷っている日本の商業者の後押しにもなると考えています。

中国と日本とでは、消費者のライフスタイルや考え方、テナントとの契約やさまざまな交渉などが大きく異なります。しかし、単なる不動産ではなく、地域と一体となり、地域になくてはならないショッピングモールをテナントとともに創り上げていくことは万国共通です。

「安全・安心・清潔」をキーワードにモールを運営していくこと、CO<sub>2</sub>の削減、ごみの分別やリサイクル、植樹活動など、国内と同じ最高の基準をめざします。

### 真のグローバルカンパニーとして

イオンモールの長期ビジョンの「グローバル5」は、名実ともに世界に評価される企業になることを意味します。そのためには単に海外への事業展開だけではなく、当社の経営のマネジメントシステムやビジネスプロセスのグローバル化も推進していかなくてはなりません。そして真のグローバル企業へと脱皮していくことこそが、将来の成長と発展を約束するものなのです。

本年はまさにグローバル化元年。イオンの総力を結集して北京1号店を成功させ、ここをベースに、長期目標である2017年海外50ショッピングモール体制の実現に向け、本格展開を図ってまいります。



永旺国際商城購物中心（中国・北京）  
 2008年秋オープン予定